



「神のいましめをまもるように。ちゅうじつにいましめをまもるものはこうふくになり、いつか神とともにすめるのである」とベニヤミン王は言いました。(モーサヤ2：41)



「イエス・キリストは、やがてこの地上にお生まれになる。その母の名はマリヤという。」(モーサヤ3：5, 8)



さらに王はこう言いました。「イエスはきせきを行われる。びょうにんをいやし、しんだものを生きかえらせ、目のふじゆうな人に見えるように、耳の聞こえない人を聞こえるようにされるであろう。」(モーサヤ3：5)



「イエスはぜんじんるいのつみのためにくるしみをうけ、しなれるのでくいあらためてイエスをしんじるものは、つみをゆるされる。」(モーサヤ3：7, 11-12)



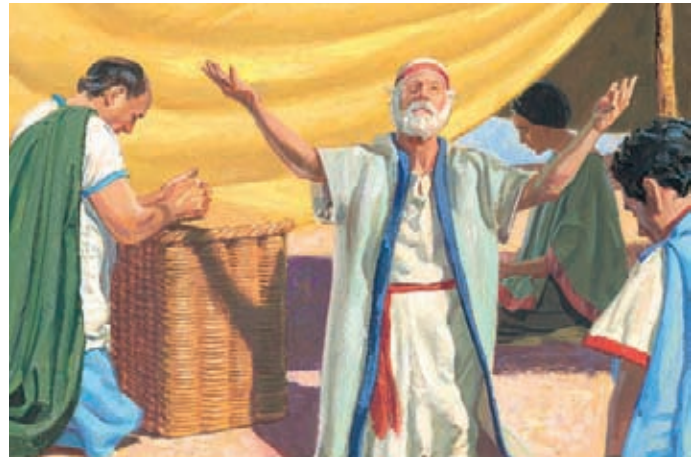
「あくにんたちはイエスをむちうって、じゅうじかにかける」と王はニーファイ人に言いました。(モーサヤ3：9)



「しかし、3日後にイエスはよみがえられる。」(モーサヤ3：10)



ベニヤミン王の話^{おう はなし}を聞いて、ニーファイのたみ^ちは地にひれふしました。たみは自分^{じぶん}たちのつみをかなしみ、くいあらためたいと思^{おも}いました。(モーサヤ4：1-2)



たみはイエス・キリストを^{しん}じて、つみがゆるされるよ^ようにといのりました。(モーサヤ4：2)



すると、せいれい^{ひと}が人びとの心^{こころ}にくだられました。たみ^{かみ}は神がそのつみをゆるしてくださり、自分^{じぶん}たちをあ^あいしてくださっていることを知^しって、心^{こころ}がやすらかになり、よろこびにみ^みたされました。(モーサヤ4：3)



「神^{かみ}を^{しん}じなさい。」ベニヤミン王^{おう はなし}は話^{かた}をつづけました。神^{かみ}がばんぶつをおつくりにな^なったことと、ぜんちぜん^おのうのお方^{かた}であられることを、たみに分^わかってほ^ほしいと思^{おも}ったのです。(モーサヤ4：9)



「へりくだ^{まいにち}って、毎日^{まいにち}いのらなくてはならない。」ベニヤミン王^{おう}はたみ^{かみ}がつねに神^{かみ}をおぼえ、ちゅうじつであることをのぞ^{のぞ}んでいたのです。(モーサヤ4：10-11)



ベニヤミン王^{おう}は親^{おや}たちに、子ども^こたちがけんか^{はな}をしたり、言^いいあらそい^{はな}をしたりしないよ^ようにと話^{はな}しました。(モーサヤ4：14)



子どもたちには、じゅうじゅんであって、たがいにあいし、たすけあうことを教えるように言いました。(モーサヤ4：15)



また、自分の思いと、ことばと、行いに気をつけるようにとも教ええました。「しょうがい、ちゅうじつに神のいましめをまもらなければならぬ。」(モーサヤ4：30)



ベニヤミン王がいじょうのことばをしんじるかと、たみに聞くとたみは言いました。「わたしたちは王のことばをしんじています。わたしたちはせいいいによってかわりました。もうわるいことはしたくありません。」(モーサヤ5：1-2)



そして、神のいましめをまもることをやくそくしました。ベニヤミン王はたいへんよろこびました。(モーサヤ5：5-6)



ベニヤミン王はむすこのモーサヤを新しい王とし、それから3年後になくなりました。(モーサヤ6：3, 5)



父のベニヤミン王と同じように、モーサヤも正しい王でした。モーサヤはよくはたらき、たみのためにつとめました。(モーサヤ6：6-7)